

1. 件名：「泊発電所3号炉の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（164）」

2. 日時：令和5年6月28日(水) 16時00分～18時10分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口上席安全審査官、谷主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、井清係員、松末技術参与、廣井技術研究調査官

北海道電力株式会社：松村執行役員 他8名

(このうち1名はテレビ会議システムによる出席)

電力中央研究所 1名

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

<<本年6月26日に受取済み>>

- ・ 泊発電所 火山影響評価のうち立地評価について
- ・ 泊発電所 火山影響評価のうち立地評価について（補足説明資料1）
- ・ 泊発電所 火山影響評価のうち立地評価について（補足説明資料2）

時間	自動文字起こし結果
00:00:00	していただいてそこから確認したいと思いますので、まず北海道電力からの説明をお願いします。
00:00:06	松村です。本日のヒアリングよろしくお願いたします。
00:00:10	6月12日のヒアリングを踏まえまして資料を修正しました。6月26日付で出させてもらっています。
00:00:19	修正箇所を中心に説明いたします。説明は仲山から30分以内ぐらいを説明させていただきます。よろしくお願いします。
00:00:34	田山です。
00:00:35	資料説明させていただきます。
00:00:37	今回提出させていただいた資料、前回と同様、本編資料、補足説明資料1、補足説明資料2のA3部構成と、
00:00:46	まず本編資料お願い。
00:00:56	8ページには本編資料の目次示しております。前回、6月12日、ヒアリングの際には、3の1章、地理的領域にある第4紀火山の抽出に関する検討。
00:01:07	こちらの中で示していました。
00:01:09	文献調査、地形調査、地質調査及び
00:01:13	火山学的調査の結果について、今回、補足説明資料1に掲載箇所を移してございます。
00:01:20	また、今回7章、火山影響評価のまとめ、こちらの所を新設し、立地評価のまとめと今後説明を予定している影響評価、
00:01:29	ヒアリングの検討。
00:01:33	ページ飛びまして61ページ。
00:01:45	61ページから、3の石堂で抽出した地理的領域にある第4紀火山、32火山を対象に実施したA3の2章、
00:01:53	将来の火山活動可能性の評価の結果を示してございます。
00:01:57	64ページをお願いいたします。
00:02:04	64ページから66ページには、地理的領域にある第4紀火山について、完新世に活動があったかどうか、及び完新世に活動を行っていないものの、
00:02:14	将来の活動可能性が否定できないかどうかを判断した根拠を、
00:02:19	この表に整理してございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:02:21	前回 6 月 12 日ヒアリングからの修正点として、完新世に活動があったか、わかりやすくなるよう、
00:02:28	更新世と完新世の境界である 1 万 1700 年前、
00:02:32	村崎ラインを今回追加してございます。
00:02:36	また、完新世に活動を行っていないものの、将来の活動可能性が否定できないかどうかをわかりやすくするため、
00:02:43	最大休止期間に加えまして、最新活動の危機を示すことになる。
00:02:49	79 ページお願いします。
00:02:58	79 ページから、
00:02:59	4 章、原子力発電所の運用期間における火山活動に関する個別評価の検討のうち、流れの右側、
00:03:07	示します 4-1、4-1 の 2 相古代噴火の可能性評価を示しております。
00:03:13	11 ページお願い。
00:03:19	41 ページには、巨大噴火の可能性評価の方。
00:03:23	まとめを示しております。
00:03:25	このうち、地球物理学的調査の着目点に関して記載の充実化を図っております。
00:03:31	80、83 ページ。
00:03:33	します。
00:03:36	82 ページには、巨大噴火に直接寄与するマグマだまりのイメージについて整理されている下司 2016 のレビューを示しており、
00:03:44	83 ページには、そのレビューを踏まえた当社の解釈を示しております。
00:03:49	83 ページの、当社の解釈につきましては、
00:03:53	大噴火に直接寄与する。
00:03:55	つまり、巨大噴火が可能な量のマグマだまりが存在する場合の地下構造の規模感についての記載を充実化させております。
00:04:05	83 ページ、読ませさせていただきますが、
00:04:07	別紙 2016 のレビューを踏まえた当初会社として、
00:04:12	巨大噴火を発生させるためには、
00:04:15	上部地殻に巨大噴火が可能な量のマグマだまりの形成が必要であり、その周囲には部分溶融域が広がっているものと考えられ、
00:04:24	さらにこれは、部分溶融によるメルトの生成、発生したメルトの分離上昇集積など、
00:04:32	地殻全体に広がる巨大なマグマシステムを構成する一部であり、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:04:36	巨大なマグマシステムは、カルデラを超える範囲に広がっているものと考えられる。
00:04:41	このため、火山直下の
00:04:43	上部地殻における巨大噴火可能な量のマグマだまりの有無及び大規模なマグマの移動上昇等の活動の有無に着目して、地球物理学的調査を実施することといたしてごさい。
00:04:57	98 ページ。
00:05:04	98 ページから、支笏カルデラの巨大噴火の可能性評価の結果を示しております。
00:05:11	ページをお願いいたします。
00:05:15	100 ページから 103 ページには、支笏カルデラの活動履歴を示しております。その中で、102 ページに示します通り、
00:05:23	噴出量、年代階段ダイアグラムについて、
00:05:27	わかりやすさの観点から、今回拡大及び目盛りを追加して示してごさいます。
00:05:33	また同じく巨大噴火の可能性評価を行っているといった登別火山。
00:05:38	洞爺カルデラの大学ダムについても同様に拡大、そして、目盛りの追加を行っております。
00:05:44	加えまして、補足説明資料 1 の地理的領域にある第 4 紀火山、32 火山のカタログに示すダイアグラムのうち、
00:05:52	紛失イベントが多く、比較的複雑なダイアグラムとなったものにつきましては、同じく拡大し、江森を追加したものを示しております。
00:06:01	112 ページをお願いします。
00:06:10	112 ページから、文献において、支笏カルデラ直下、上部地殻内に示される低比抵抗領域と、
00:06:17	地震波速度構造との比較結果を示しております。
00:06:21	前回、6 月 12 日ヒアリングにおきましては、支笏カルデラ西側の南北断面、
00:06:27	支笏カルデラ直下の低比抵抗領域 C II' が示されている山谷伊東 R2017、
00:06:34	結果を示しておりましたが、
00:06:36	今回、この名前と
00:06:38	同様な位置呈して移行領域が示されている市原江藤 2019 の、
00:06:44	東西断面との比較結果も追加で示すことにいたしました。
00:06:48	117 ページ。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:06:56	117 ページの下段には、市原へとある三つ示される、指定校構造の断面図を示しており、
00:07:04	この図の左端、支笏カルデラの直下の上部地殻内に、
00:07:08	東西方向、
00:07:09	20 キロメートルを超える、
00:07:12	定期抵抗領域 C さんが認められております。
00:07:15	この C3 を通り、深度 10 キロ、15 基、20 キロ、
00:07:20	における地震はトモグラフィ解析の水平断面図を、ホームページの上段に示しております。
00:07:27	水平断面図の受注、青の実線と破線で示す箇所につきましては、
00:07:32	市原糸井。
00:07:34	2019 の鉛直断面位置を示しており、このうち、実線で示す部分は、低比抵抗領域資産が認められる部分を示しており、
00:07:44	この C3 付近における医師不足の構造は、
00:07:47	低 Vp かつ低 VpVs 領域となっていることが確認されます。
00:07:53	196 ページ。
00:08:08	196 ページから、今回新設した 7 章、火山影響評価のまとめ、示しております。
00:08:15	198 ページ。
00:08:20	198 ページ、こちらに立地評価のまとめ方示しております。
00:08:26	一応からまとめ、読み上げさせていただきます。地域領域にある第 4 紀火山につきましては、仲野ほか 2013、産総研、
00:08:34	日本の火山データベースなどから、31。
00:08:38	この 32 火山のうち、完新世に活動があったか田仲さん。
00:08:42	完新世に活動を行って今ないものも、将来の活動可能性が否定できないかとか、
00:08:47	13 パターン研修か発電所に影響をおよぼし得る火山として抽出し、
00:08:53	この抽出した 13 火山は、各火山の活動利益を踏まえると、原子力発電所の運用期間中における活動の可能性が十分ついていると判断できません。
00:09:04	なお、過去に巨大噴火が発生した、支笏カルデラ、
00:09:07	から登別火山で、
00:09:09	大屋カルデラの現在の活動状況は、
00:09:12	巨大噴火が差し迫った状態ではないと評価できる。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:09:15	運用期間中における巨大噴火の可能性を示す科学的合理性の具体的な根拠がえられていないことから、
00:09:22	運用期間中における巨大噴火の可能性は十分に小さいと評価され、
00:09:28	原子力発電所の運用期間中における活動可能性が十分小さいと判断できない。
00:09:34	巨大地震等のそういった 13 火山になりますが、
00:09:37	こちらについては、
00:09:38	活火山事象の影響範囲、
00:09:40	敷地から各火山までの距離等について検討した結果、
00:09:44	設計対応不可能な火山でしょうか。
00:09:46	運用期間中に、敷地に到達する可能性、または敷地に影響を与える可能性は十分小さいと評価され、
00:09:54	以降の検討として、矢印下、
00:09:57	書いてます。
00:09:58	個別評価の結果を受けた、原子力発電所への
00:10:02	火山事象の影響評価、こちらを実施いたし、
00:10:05	また、巨大噴火を含んだ 13 かと。
00:10:09	対象としまして、火山活動のモニタリング
00:10:14	なお、この評価結果を踏まえた上で実施している、これらの検討。
00:10:21	これを、299 ページから示しており、
00:10:24	199 ページ。
00:10:29	199 ページ。
00:10:30	こちら、前回、6 月 12 一致ヒアリング、
00:10:34	論点が明確となるよ、この 299 ページから 301 ページに示している。
00:10:42	当初、
00:10:44	充実化を図って、
00:10:47	199 ページには、降下火砕物除く火山事象の影響評価の検討の記載に評価結果の表を今回追加しており、
00:10:56	また 300 ページ。
00:10:58	こちらには、降下火砕物の影響評価の記載に、各検討の結果として獲られた降下火砕物の層厚を追記しております。
00:11:07	加えまして 301 ページには、火山活動のモニタリングの検討の記載。
00:11:13	火山部会資料等踏まえて設定した地震活動、地殻変動、火山ガス等のモニタリング項目を整理した。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:11:20	しており、
00:11:23	資料の説明は以上となります。
00:11:25	続きまして、説明資料 1 説明させ
00:11:34	1-2 ページ。
00:11:41	2 ページ、目次示しております。
00:11:44	説明させていただきました通り、前回 6 月 12 日ヒアリングの際には、
00:11:49	運転資料に示していた文献調査、地形調査、
00:11:53	地質調査、火山学的調査の結果を、
00:11:57	地理的領域にある第 4 紀火山に関する各種調査として、今回掲載箇所を、この資料、
00:12:04	120 ページ以降に移してください。
00:12:07	20 ページ。
00:12:21	120 ページから、地理的領域にある第 4 紀火山に関する各種調査のうち、文献調査の結果を示しております。
00:12:30	敷地近傍におきましては、洞爺カルデラ、ニセコ雷電火山群の勝阿久津が分布するというふうに判断しておりますが、この敷地近傍の範囲につきまして、
00:12:41	敷地を中心とする半径 5 キロメートルの範囲に加え、岩内部屋、積丹半島西岸を含む範囲であることがわかるよう、左の箱秋野、
00:12:52	一番下の丸、今回追記してございます。
00:12:57	28 ページ。
00:13:06	128 ページから 130 ページには、この各種調査のうち、地形調査の結果を示しております。
00:13:13	地形調査の範囲といたしまして、前回、ヒアリング時のヒアリングにおきましては、
00:13:19	敷地及び敷地近傍を対象としておりましたが、今回範囲を広げまして、敷地近傍を含む、敷地から半径 30 キロ以内の陸域及び海域を対象としており、
00:13:31	129 ページに、当該範囲の陸域の地形面及び海底地形図を掲載しております、
00:13:39	30 ページ。
00:13:46	132 ページから、この各種調査のうち、地質調査の経緯と、その調査結果の概要を示しております。
00:13:54	132 ページ、地質調査及びその検討の詳細を示した

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:13:59	33 ページには、地質調査及びその検討の詳細示した補足説明資料 2 との関連性、
00:14:06	を示して、
00:14:08	133 ページ。
00:14:11	します。
00:14:15	134、35 ページには、敷地及び敷地近傍における地質調査の結果を示しております。
00:14:22	135 ページ、平面図、
00:14:24	地質調査結果は、一目でわかるよう、各調査地点に認められる火山噴出物をそれぞれ層厚と、示しております。
00:14:34	136、137 ページ。
00:14:42	136、137 ページには、降下火砕物の純層二次堆積物へのサイクルの考え方を示しております。
00:14:51	今回このサイクルに用いた火山ガラスの流出の定量的な判断基準を明記いたしました。
00:14:58	137 ページに、その判断基準を表に示しております。
00:15:03	主に本質物からなるもの。
00:15:05	として、町田ほか 1987 において、大矢火山灰が分布するされている地域、受ける当社地質調査、
00:15:13	こちら梨野舞納露頭の調査、
00:15:17	火山ガラスの流出が 3000 分の 1000 粒子以上認められることから、
00:15:22	基準を 3000 分の占有シートとして、
00:15:27	主に本質ですか。
00:15:29	比較して、もう一つの占める割合が低いもの。
00:15:32	基準といたしましては、
00:15:34	火山ガラスの流出が 3000 分の 1000、
00:15:37	また、3000 分の 300 粒子含有比で言いますと 10%以上のものを設定してごさい。
00:15:44	これより 3000 分の 300 粒子未満である堆積物については、火山が存在する解析ですと評価して、
00:16:05	151 ページには、設計対応不可能な火山事象が敷地に到達した可能性評価、
00:16:12	まとめを示しております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:16:14	評価結果に変更はございませんが、151 ページの表に、支笏火砕流堆積物及び洞爺火砕流堆積
00:16:23	敷地方向の最大到達距離に加えまして、その地点から敷地までの距離を、今回追加して、
00:16:31	事例としまして、25 ページ。
00:16:43	25 ページには、支笏カルデラ起源の火山噴出物の分布を示しております。
00:16:49	敷地方向の最大到達点は、予定座の下側、
00:16:53	ありまして、支笏カルデラからの距離は約 48 キロメートルで、
00:16:59	またこの地点から敷地までの距離、
00:17:02	これは、
00:17:17	方でクッタラ登別火山につきましては、40 ページ、田沢副室長、全部
00:17:25	丸で示します通り、
00:17:27	TP7.7 億。
00:17:30	示されていない。
00:17:31	状況ですので、敷地方向の最大到達できる敷地からの距離は、今回こちらには II、
00:17:38	示しております。
00:17:42	説明資料 1 の説明は以上になり、
00:17:46	補足説明資料にお願い。
00:17:55	説明資料の 2、2 ページをね。
00:18:00	今回冒頭に、この説明資料 2 の位置付けを、
00:18:05	追加いたしました。
00:18:08	2 ページには、
00:18:09	イメージと地質調査の概要を示した補足説明資料 1 の関連性を示しております。
00:18:15	まず敷地及び敷地近傍における火山噴出物の分布状況、
00:18:20	つきましては、評価のうち、火山活動の規模と、設計対応不可能な火山でしょう。
00:18:27	個別評価の結果を受けた原子力発電所への火山事象の影響。
00:18:34	火山活動のモニタリングも含めた火山影響を適切に評価するためにも重要でありますことから、
00:18:40	地質調査の結果に基づく評価を実施いたしました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:18:43	この地質調査の結果につきましては、補足説明資料 1 に概要を示しておりますが、
00:18:49	調査及び検討の詳細につきましては、補足説明資料 2 の 1 章から 7 章に示しております。
00:18:56	加えまして補足説明資料 2 には、産総研 2020、
00:19:00	日本火山時におきまして、アイスボール目録の、
00:19:05	約 120 メートル以上。はい。
00:19:07	示されている。小山さん言う堆積物に関する、
00:19:11	示しており、
00:19:14	説明資料 2 の資料構成につきましては 3 ページ示しており、各種検討地点を 4 ページ、
00:19:20	5 ページ。
00:19:22	12 ページ。
00:19:29	12 ページから 14 ページには、1 章、敷地及び敷地近傍の火山噴出物に関する検討の概要を示しております。
00:19:39	12 ページの上段、令和 3 年 10 月審査会合以前の検討のうち、
00:19:44	から二つ目。
00:19:45	近傍 (2) 。
00:19:47	岩内ね西部、
00:19:49	梨野舞納梨野舞納地点で実施したボーリングにおいて、火山灰質と記載がなされている、取り扱いが明確な、
00:19:58	ございましたので、今回、火山灰分析を実施し、評価を行っており、
00:20:04	79 ページ。
00:20:16	79 ページには、敷地近傍 (2) 言わなきゃ西部で実施したボーリング調査の結果のうち、梨野舞納地点で実施したボーリング柱状図を示しております。
00:20:27	震度 6.66 から 7.52 抽象的。
00:20:32	上がん媒質砂との記載がなされて、
00:20:35	この堆積物について今回、火山灰分析を追加で実施いたします。
00:20:41	181 ページ。
00:20:45	181 ページ、火山灰分析の結果を示しております。
00:20:49	震度 6.66 から 7.52 を対象とした。
00:20:53	火山灰分析、組成分析の結果、
00:20:56	下端からその流出が最大 3000 分の 36 粒子であることから、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:21:02	主に火山砕屑物からなるものではなく、破断ガラス本体する須賀にされます。
00:21:08	225 ページ。
00:21:18	125 ページから、保障引地近傍（3）、積丹半島西岸における大矢火砕流堆積物の有無に関する検討を示しております。
00:21:28	126、127 ページ、こちらに、本検討の全体のまとめを示しております。
00:21:36	まとめの記載、充実を図ってございますが検討の結論には変更は、
00:21:42	230 ページ。
00:21:46	230 ページから、この補償の検討のうち、各地点のまとめを今回今回追加で示して、
00:21:55	岸地点を 1 例に、
00:21:58	130、203。
00:22:03	132 ページには検討の手引き地点の検討結果のまとめ示して、
00:22:09	233 ページには、古木地点の検討結果を平面図に示したものを掲載して、
00:22:16	233 ページ、照岸地点で確認された方が存在する対策。
00:22:21	及び、主に火山砕屑物からなる降下火砕物の元素や堆積物を示して、
00:22:29	手引き地点におきましては、洞爺火山灰の二次堆積物、
00:22:34	堆積物、
00:22:35	これが赤の四角で示している場所になりますが、それと破断ガラスが混在する対策ですが、
00:22:44	このように、根井輝土岸地点と同様に、230 ページ、231 ページには、泊②地点のまとめ、
00:22:51	134、235 ページには、古宇川左岸地点のまとめ。
00:22:56	136、137 ページには、
00:22:58	まとめをそれぞれ示しております。
00:23:02	本検討におきましては、大江火山灰の幻想二次堆積物、
00:23:07	記載しておりますが、
00:23:08	当該堆積物は、浅井佐治様。
00:23:11	三井。
00:23:13	ことは難しいと。
00:23:16	481 ページ。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:23:28	481 ページには、6 章、敷地における火山噴出物の有無に関する検討のうち、敷地の調査箇所であります F-1 断層開削調査箇所のスケッチを示しております。
00:23:40	前回 6 月 12 日ヒアリングの際には、火山灰等と記載されている堆積物のうち、最も厚く堆積しているよう描かれていない白色の火山灰の、
00:23:51	ついて最大層厚記載しておりました。
00:23:53	今回、その下位に認められる今井の方解職の火山灰も含め、最大層厚と平均層厚を推定いたしました。
00:24:02	平均層厚につきましては水平距離 1 メートル間隔で層厚を推定し、その平均値といたしました。
00:24:09	結果は、ページ右側の表に示しております。
00:24:13	はい白色の火山灰につきましては、最大層厚 95 センチ、
00:24:17	平均層厚 40 センチと推定しており、
00:24:21	今井の会食の方が 1、上位のものについては、最大 23 銭。
00:24:26	平均 14 センチと設定された場合のものについては、最大 18 センチ。
00:24:31	平均 14 センチと推定される。
00:24:35	なお、白色の上位の早口の火山灰の上位の、明瞭に層厚が薄く見える火山灰質シルトと記載されている堆積物について、今回合わせて、
00:24:46	松井て行い、
00:24:48	最大層厚 13 センチ、
00:24:50	平均層厚、あっせん値と推定されます。
00:24:54	本日の説明は以上となります。
00:25:03	規制庁等による説明あり事ございました。
00:25:05	どうしようかな
00:25:07	まず最初に、
00:25:09	今回新しく
00:25:12	資料追加していただいた、
00:25:17	本編の
00:25:20	299 ページ以降ですかね、これ
00:25:24	前回のヒアリングで、
00:25:28	審査会合では、
00:25:30	次の影響評価も含めて、論点はお互い共通認識してた方がいいんじゃないのかというようなことを、私の方たちから言ってんで、これ、
00:25:41	作っていただいたんですけど、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:25:44	少しですね、見てて、
00:25:50	まあね、
00:25:51	ちょっと文字ばかりっていうところはあるんですけども、でも限られた時間の中で候補を作っていたことは、
00:25:59	感謝してるんですけども、もう少しわかりやすく、何か、
00:26:04	図表みたいなのがあればいいなって思ったのと、
00:26:07	要するにこの辺、
00:26:10	もう資料は作られているようなところをちょっと抜粋するなどしてもらったら、
00:26:15	いいのかなとか思ったのと、
00:26:17	できれば、
00:26:21	できればっていうことで言ってたのが論点として、
00:26:25	九州で九州矢野北海道電力は、どういう論点を考えて、どういうことを、何か、
00:26:33	これは審議の中で、
00:26:37	確認しなければいけないのかとかいうその北海道電力の考える、残されている論点っていうのをですね、何かわかるようにしてもらえたらよかったんですけども、今の
00:26:49	資料はこうやっていきますよということで書かれてて、国井。
00:26:56	北海道電力としては、
00:26:59	論点は残っていないって思ってるんですかそれとも何かこの辺が論点として、
00:27:05	書いてるんですけどっていうこと。
00:27:07	なのかももう少しちょっと説明していただけたらと。
00:27:28	北海道電力の渡部です。
00:27:31	投資の部分につきましては、わかりやすさの観点もう少し工夫をさせていただければ、
00:27:37	思います。
00:27:38	論点ということですいません明確に論点はここですってというイメージを、としてはいなかったんですけども、考えているのは、2年前の3月31日の審査会合で、
00:27:49	論点として抽出いただいているものと基本的に同じと思ってございまして、
00:27:55	まず降下火砕物の層厚評価。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:27:57	これにあたっては、自前の地質調査、
00:28:00	文献調査、これに加えて、シミュレーション
00:28:04	でシミュレーションをどういう条件で実施する。
00:28:06	その条件のところ、最終的なアウトプットとしての層厚、この辺りの決め方がまず論点になってくると思ってます。
00:28:14	モニタリングに関しましては、対象とする火山はどれに、
00:28:18	ガイドを踏まえた上で、
00:28:20	その対象を決めた上で、
00:28:22	そのモニタリング対象に対してどのような監視項目でやっていくのか。
00:28:26	例えば2年前の論点の中では、
00:28:30	火山部会の資料等を踏まえた上で、それを整理することとなってございますので、我々としても、火山部会資料を参考にさせていただいて、今、
00:28:40	301 ページの下の表に書かれているような項目でモニタリングをしていくことがよろしいんじゃないかというふうに思っていますのでそのあたりを書いた次第でした。
00:28:50	ここに論点としてこう考えていますというふうに明確に記載をしていくことは可能だと思いますんでもう少し工夫はさせていただけたらいいかなと思ってございます。以上です。
00:29:02	はい、谷です。
00:29:03	そういうことであれば、今あれですかね
00:29:09	毎回会合で提出していただいている審査上の論点と作業、作業スケジュールについて、こことほぼ同じようなものがここにいれば、
00:29:19	いいんじゃないのかっていう話ですかね。なんかね、それはそうなんでしょうけど、
00:29:28	何か少しこう、そのまんまっていうことでもなくともうちょっとブレークダウンしてもらおうと。
00:29:35	個別のあれ、これはうちの考えてる論点と違うんじゃないかなとか。
00:29:41	こんな論点あるんじゃないのかなとか。
00:29:44	そういう話ができるかなと思うんですね。ちょっとこれ、時間もなくてどこまでやるかっていう、どこまでこれ、
00:29:54	審査を効率的に進めようっていう話で、ここを審査してるわけではないと思うので、どこまで入れるかっていうのはちょっと、
00:30:04	お任せしますが、より具体的な話ができるような、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:30:08	あの方がいいかなって思ったのと、
00:30:12	あとはね、何か、
00:30:15	ちょっとこうなってますっていうような話が基本になってるんですけど、特に今後こういうことを説明していきますとか、
00:30:26	何かその辺があったら、もう少しイメージできて、例えば、
00:30:32	モニタリングについては、どういう基準でやっていくのかとか、多く説明していきますだとか、例えばか。
00:30:41	火山噴出物。
00:30:43	違う。
00:30:45	火山灰層厚については、どういうふうを選んで行っているのかとかをしっかりと説明し、していくとか、
00:30:53	何か、
00:30:56	これって、うん、結果の超概要みたいな感じになってるんですけども。
00:31:04	できればそういうことを書いてもらった方が話しやすいのかなと。
00:31:09	いうふうには思います。それに対して我々も、
00:31:13	こうなんじゃないんですかとかいう話があればね、共通認識を得るっていう意味で、有意義になってくると思いますので、
00:31:24	はい。
00:31:30	北海道電力の渡部です。はい、承知いたしました。
00:31:33	内容を改めて、少し確認、検討させていただければと思います。以上です。
00:31:49	規制庁の名倉です。
00:31:52	今回、
00:31:56	影響評価も含めて、今後の論点のところ、
00:32:00	次回会合で少し議論するために、
00:32:03	内容を少し追加してくださいと。
00:32:06	今のところのイメージとしては、
00:32:09	これまで論点を整理してきた内容。
00:32:14	もう一応継承してその内容は基本的に網羅しますということだったんですけど、
00:32:20	今後、効率的かつ効果的に審査を実施していくために、
00:32:27	事業者がみずから考える。
00:32:31	ところの、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:32:32	より具体的な論点、
00:32:34	というものを記載してもらえると。
00:32:38	お互いのその論点課題に対してのすり合わせができますので、
00:32:44	そこのところはなるべく具体的に、
00:32:47	こういう課題があってこれに対してこういうふうに対応しようと思っ ていますというところを、
00:32:53	記載いただけたらなと思います。
00:32:57	これ先行の審査事例としては、
00:33:00	浜岡とかですね、そういったところで、
00:33:03	今後の地震、
00:33:06	津波、
00:33:07	地質に関しての、
00:33:09	方針。
00:33:10	を述べてもらう中で、こういうふうな課題が、
00:33:14	浜岡のサイトの条件の中では、特異な条件として課題がありますという ようなこともやっていますので、
00:33:22	そういったところも少し見ていただいた上で、
00:33:25	より踏み込んだ議論ができるような、
00:33:29	内容を反映していただければ、
00:33:33	思いますのでよろしくお願いします。
00:33:38	北海道電力泉です。今の名倉さんのご発言の趣旨、理解いたしました。
00:33:44	先ほど来申し上げてますよね。基本的には、やはり思想圧ですとかモニ タリングが、論点の主軸だと、いうふうには考えてますけれども、
00:33:55	改めて少しわかりやすい資料を追加するですとか、或いは踏み込んだ議 論ができるような内容を、できる限り書き込むとか、或いは、
00:34:05	先行の資料作りを少し参照しながら、こういった示し方がいいか。
00:34:11	検討して検討して、ブラッシュアップを図ったり、
00:34:15	思います。以上です。
00:34:22	はい。お願いします。
00:34:24	資料の方確認を順に続けていきたいと思いますもう複数回はやってるの で、
00:34:31	ちょっと細かい話になっていくんだと思うんですけども、気づいたと ころを順次、担当の方から説明、確認をしていただく。
00:34:42	いくような感じで進めます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:34:45	まず僕の方から、
00:34:47	今回、資料構成を、
00:34:51	ちょっと変えましたと。確かにねこっちの方が数進むスムーズに、
00:34:57	読めるかなというふうに私は思います。説明も聞きやすいかなと思うんですけども、ただね、
00:35:07	一応
00:35:11	会合で指摘を受けたことに対応しているということが、
00:35:16	例えば 22 ページとかで、
00:35:19	32 火山に矢印が来てって、これは何か文献調査だとか、
00:35:26	地形調査の地質調査及び火山学的調査を実施しているんだと。
00:35:32	いうことではあるんですけども、
00:35:34	これ何か
00:35:36	もう補足にあるんだったら補足何とか 2 項、それは入ってるんだと。
00:35:41	というようなちゃんと書かれた方が、
00:35:44	いいと思うんですね本来ならばここをここに来る、この本編に入ってきてもいいんですけども、それをもう、
00:35:51	かさばるので飛ばしてるんですよっていう話であればですね、ここを見てくださってというので、
00:35:58	参照したらいいかなと。
00:36:00	思います。
00:36:05	関連づけしてもらったらいいか。
00:36:12	後は、変えたところの話として、
00:36:26	さっき
00:36:27	この変更しましたって 82 ページ 83 ページを、
00:36:33	説明は丁寧にさせていただいたんですけど、
00:36:38	結局、
00:36:41	結局その 83 ページで地下構造で把握できるような規模感みたいなことを、
00:36:48	言われたんですけども、
00:36:53	何か文章を読んでも、
00:36:56	よくわかんないですよ。どう、どの探査で、どういうふうな規模感が、
00:37:02	分かるの D だから、
00:37:05	これは、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:37:06	もし巨大噴火。
00:37:08	何ですかね、巨大噴火の可能性があるようなマグマだまりがあったら、 見つけることができるんですよっていう。
00:37:15	説明を書いているようには僕にはこう見えなくて、
00:37:22	実際のところは何か、
00:37:25	どうなんですこれは、部分熔融域がもっと広いから、
00:37:30	だからそうそういう広い部分熔融だったら、
00:37:33	地震波速度を構造で、
00:37:37	わかるんだとかいう言葉では何かそういうこと聞いてたはずなんですけど。
00:37:41	そういう説明になってますかねこれ。
00:37:49	北海道電力の渡部です。
00:37:51	8283 というのが今は 81 ページの、
00:37:57	上の方にすみつき括弧で地球物理学的調査っていうところの下にある 12 三つぐらいの丸にはね返ってきてるっていう作りになっていて、
00:38:07	圧地球物理学的調査をするにあたって、
00:38:11	どんな地下構造がイメージされていてそれに対してはどのような調査をすれば、 それが見えてくるんだろうねっていうのを、
00:38:18	わかる流れに考えてます。で、まず最初に地球物理学的調査をするにあたって、 下司さんをレビューしましたってのが頭に入ってきてまして、 8283 ページがそれです。
00:38:30	直接寄与するマグマだまりっていうイメージを警視さんでは示してくださって おりますので、
00:38:36	これに基づくと、我々の考えとして 83 ページの方になってきてまして、
00:38:42	巨大噴火っていうものを発生させるには、やはり珪長質なものが上部にあるって 決算のレビューでありますので、上部地殻に、
00:38:51	巨大噴火可能な量のマグマだまりの形成が必要であって、
00:38:55	その周囲にはさらにそれを取り巻く部分熔融機、これはメルト量としては下がって くるんですけど沼だまりマグマチャンバーに比べればメルト量が下がってくるん ですけども、
00:39:07	メルトを含んだ部分熔融域っていうのが広がっています。
00:39:10	これらというのは、
00:39:12	部分熔融域によるメルトの生成分離上昇集積といった地殻全体のマグマシステムを 構成する一部であって、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:39:21	巨大なシステム自体はカルデラを超える範囲に広がっていると考えられますということでカルデラを超える規模感なんでしょうねというところをまず前提にしています。
00:39:30	こういったイメージを持った上で、
00:39:32	上部地殻に可能な量のマグマだまりがあるかっていうのを見ていきます。で見ていく際に観点としてはマグマだまりの有無、あるかないかというのを見るということと、
00:39:43	先ほどの文章で、上昇集積という言葉がございましたけども、
00:39:47	大規模なマグマの移動上昇等の活動があるかないか、この二つに着目していますということを明言してございます。
00:39:55	この二つ、マグマだまりがあるかないのか、カルデラを超える規模の部分溶液を含むマグマだまりがあるかないのか。
00:40:03	それと、マグマの移動上昇というのがあるかないのか、ここを地物で見っていきますという宣言をまずここでしてございます。
00:40:10	その上で81ページに戻っていただきまして、
00:40:14	上の方の墨つき括弧の地物のところの決算のレビューがはね返ってきますので、このマグマだまりがあるかないのか、マグマの移動上昇があるかないのかを地物で実施しますと言った後に、
00:40:27	じゃあどうやってみてくんだというのがその下に続きまして、この地下構造については、以下を確認していきますとなってきます。
00:40:35	あるかないのかという観点でいくと、地震波速度構造、ここはメルトの存在を示唆する顕著な低Vp、高VpはVsがあるかないか、これはベルトがあるのかな、ないのか。
00:40:46	マグマがあるかないのかです。同じく比抵抗構造としても、間隙水マグマ、湿潤状態の粘土鉱物を示唆する低比抵抗領域があるかないのか、マグマがあるかないかという観点を見ていくと、
00:40:58	ことを書いてます重力異常は若干参考的な位置付けになってしまうんですけども、あるかないのかという意味ではこのあたりになってきます。
00:41:06	そしてこの箱の中の下から二つ目にあります。
00:41:09	火山性地震の低周波地震に関しましては、下鶴さんの文献等を踏まえますと、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:41:15	マグマや熱水の流体が関与して発生していると考えられるものが多いとされていますので、低周波地震というのが、マグマの移動上昇等の活動を示すが、場合があると。
00:41:26	我々としては考えますので、
00:41:28	移動という観点に関しては、低周波地震を見ていくということを宣言しています。
00:41:33	同じように地殻変動に関しましては、青木さんの文献を踏まえると、マグマが注入されると増発しまして算定が膨らむとされていますので、同じく移動マグマの移動という観点で地殻変動の状況を確認しますと、
00:41:47	というようなことを言っているというような大きな構成として考えてございますので、マグマがカルデラを超える規模の部分溶液を含んだマグマがあるのかないのかを見ようという観点と、
00:42:00	そのマグマの移動上昇というものを示唆するものがあるのかないのか、これを見ようということを着目点として、それに該当する地物をして、地物の調査をしていくというような大きな考えでございます。以上です。
00:42:15	井谷です。えっとね、
00:42:19	基本的には、こういうことをやりたいなっていうのはわか分かる。
00:42:23	てるんですけども、
00:42:25	それに対して前回のヒアリングや或いは前々回のヒアリングで、
00:42:30	我々気にしているのは何となくわかってると思うんですけど、その分解能だとか、そんな話をこう、
00:42:36	幾度となくしてきてて、それはどう、どういうふうにしてとらえるのかっていうような話が、何か加わったのかなって思う。
00:42:46	たら、何か、
00:42:47	そう。さっきの地下構造の規模感みたいなものを書きましたとか言っはいるんだけど、それって一言で言うと、
00:42:57	あれですか、軽部エラー。
00:43:00	カルデラを超えるようなところから、
00:43:03	そういう言葉で、カルデラを超えるようなものを、
00:43:08	うん。
00:43:10	あれ僕、見失ったのは、カルデラの大きさを超えるってなくて、
00:43:16	カルデラを超える範囲に広がっていたら、つかめるんです。
00:43:21	とかいうふうには、まあまあ、僕はこれでとれなく、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:43:28	わかりますか、カルデラ。
00:43:31	を超える。
00:43:33	範囲に部分用品があれば、必ずこの
00:43:37	地物でとらえるような、具体的には地震はトモグラフィーでわかる。
00:43:42	て言うような説明ではないってことでいいんですかね、これ。
00:43:50	北海道電力の渡部です。
00:43:52	具体的にこう文言に落としたときに何キロなら見れるとか、そういうの ってなかなか、
00:43:58	言い切れるものじゃないなっていうふうに、基本は考えていてそれで文 章に起こすところの、
00:44:05	ぐらいになってしまうんですけど、
00:44:07	イメージしてる谷さんがおっしゃってた通り、
00:44:11	巨大噴火が可能な量のマグマだまりがまざっ、
00:44:15	これはメルト量が、
00:44:17	多分 50%を超える結晶量に対してメルト塗料がもう 55 割を超える液相 と振る舞いルートとして噴霧振る舞いるマグマだまりがあって、
00:44:26	その周りに必ずメルト量としては下がるんですけど、どちらかという と固相として振る舞う。
00:44:33	クリスタルマッシュと言われてる部分養育が存在してる、そこにも当然 ながら Melt は存在するわけになりますので、それがカルデラを超え る、具体的にちょっと数字の心苦しいんですけども、
00:44:45	支笏とか洞爺であるならば、カルデラを超えるってなると、10 キロ以上 にわたっての距離になってくると思ってます。それぐらいの規模感の、
00:44:56	巨大噴火が可能な量を、液相として振る舞いるマグマだまりと、その周 りのメルトスプレッド舎下がるんですけども、部分溶液が存在している だろう。
00:45:06	それぐらいのオーダー、10 キロを超えてくるようなオーダーのものであ って、部分養育にも Melt が含まれてございますので、地震波速度構造 なり、
00:45:17	比抵抗構造を見ていくと。
00:45:19	部分熔融機中のメルトの部分もとらえてきますので、周りの近くに比べ れば低速度領域になるし、定期抵抗領域の
00:45:28	相対的に周りの近くに対して、てな部分っていうのが、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:45:33	ある程度の規模感で見えてくるはずとらえられるはずだっというような考えでございます。以上です。
00:45:47	これ、これ以上何かのね、言う、また議論
00:45:51	しまうので、その辺の言いたいことがあればですね。
00:45:56	表現してもらったらいんですけど、到底ね僕これを見てて、
00:46:01	伝えたことが、今、渡部さんの何、何割ここの文書にこう入ってるのかっていうと、ちょっとあんまりこう伝わらないような、
00:46:11	話し出しかといって軽部エラー。
00:46:16	を超えるような、10キロメートルをこういうローダーであれば、じゃあ、必ずつかめるんですかねとかいう話にも、若干まだちょっと、
00:46:26	そことはまた、
00:46:29	もう少し行間がありそうな気がして、とりあえずこの文章の意味を確認したってということで、次の話、
00:46:39	はい。既設の名倉ですけど、
00:46:43	資料を読んで、
00:46:47	なかなかいろんなところにいろんなことが書いてあっては、どう読めばいいんだろう。わかりにくいなと思っていて聞いていると渡部さんの口頭でしゃべってることの方がよっぽどわかりやすくて、
00:46:57	あ、あそういうことで、そういうふう読んでいけばいいのかというふうに思っていますね。
00:47:04	逆にもっとシンプルに書いていただければ、
00:47:07	もっとわかりやすいのにというふうに思ったのと、
00:47:10	当方法論としてなかなか表現しづらい部分については、
00:47:16	これは今、考えとして述べていただいた内容。
00:47:19	というのは非常に重要で、
00:47:22	それをある意味知りたい部分でもあったのでそういったところを、何かうまく書き分けていただければ、方法論的な話と、
00:47:31	今回のこの結果を踏まえた、
00:47:34	行ったときにどういうふうな解釈、考え方で、
00:47:37	いろいろと、
00:47:42	論理構成っていうか、論拠を積み重ねてと判断したのかっていうところの、
00:47:47	考えですかね。そういったところ Lower、やはり何らかの具体的な考えを持ってやられているということも、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:47:56	聞いたらわかったって、そういったこともちょっとして何か表現していただいた方が、
00:48:02	議論はちゃんとできるのかなというふうにちょっと思いました。
00:48:10	北海道電力の渡部です。はい、承知いたしました。
00:48:14	どうしても一般論的に書かねばっていう気持ちでやってはいるんですけど、もう少し当社としての、いえる範囲での、
00:48:22	考え方。
00:48:24	というところを、
00:48:25	入れられるようにかつシンプルにできるように、
00:48:28	少し検討させていただければと。
00:48:30	思います。以上です。
00:49:15	はい。谷です。どこまで資料にするかっていうのはちょっと、
00:49:19	考えていただいたらと思いますんで、
00:49:22	えっとねその話のもう、
00:49:25	具体的にこれ何度も何かヒアリングとかで確認してすいません質というのは、113 ページに、
00:49:37	低比抵抗ってというのは地震はトモグラフィーでとらえて取られたというか、説明できるんですよっていう話を、
00:49:46	されているんですけども、
00:49:48	これも細かい話をするとここでね、113 ページで、
00:49:55	問題あると、課題になってるのは新規脱臭なわけですよ。
00:50:00	C'。
00:50:02	案というのが 20 キロよりも浅いところ
00:50:05	C'のところをこう見る等、
00:50:10	そもそもこれ低 Vp ですらないんじゃないのかなっていうふうに
00:50:15	見えるんですよこれ多分これ、
00:50:18	説明されてるのは新都市出しを合わせてそういう説明されているんだと思うんですけど、C'に対してもそういうことがいえるっていう、いう話なんですか。
00:50:39	北海道電力の渡邊さんのご指摘の通り、今ですね 113 ページで、低 Vp 領域って書いてある黄色い目玉。
00:50:47	これが C2'がちっとはまってるかっていうと、そうはなってはいないと。
00:50:51	私たちとしても、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:50:53	C'っていう停止抵抗領域があるなということに着目してどうような、
00:50:59	断面同様な深さを見た時に目立ってくるのが、この黄色い目玉の底部行き領域かなと思ひましてここに着目して、
00:51:07	未書いているという状況になります。ここで特に、
00:51:18	C2'にかっちはまるってなると、この目玉の少し上、
00:51:23	ていう形になる。
00:51:26	状況としてはそういう形になっていて、低 Vp のその椎葉'と真ん中がって言われると、そうはなっていないんですけど、今、
00:51:35	その定数指定校領域が低速度領域、速度構造でいくと、低速度が、
00:51:42	少し下の方にあるので、それに着目して言うと、
00:51:46	水になるんじゃないかっていう書き方をしているということになります。
00:51:51	以上です。
00:51:53	はい、丹です。そういうことなんですね。
00:52:01	あと、この話を、もっと細かい話ですけどさっき
00:52:06	記載を、
00:52:07	ちょっとこれまで低 Vp って書いてたけど、低 Vp、Vs に変えたんだとかいう話があったんですけど。
00:52:15	低 Vp かつ低 Vs かな、
00:52:19	これで、低 Vs であることっていうのは、どういうふうに、
00:52:25	見ればいいんですそこは、
00:52:27	説明では書いているんだけど、
00:52:32	あれどこだったかな。
00:52:33	だけど、別に、
00:52:36	この
00:52:37	評価では使ってないってことなんすけど、Vs の方は、
00:52:49	北海道電力中山です。谷さんおっしゃってるのって、中嶋
00:52:56	物件のところ、
00:53:04	ちょっと記載を、論文の記載が
00:53:10	記載に合わせて、低部位、映像部位と書かれていたので、低部位と書いてたんですけどもそこを低 Vp、そして低 Vs と Vs と VT 分けたという、
00:53:21	記載の修正を行ったと。
00:53:26	あれ。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:53:28	85 ページかな。
00:53:33	今日のご説明の中では特段、
00:53:35	説明はしていない、してなかった。
00:53:39	これ変わったの。
00:53:40	だけかて V かつて書いてたんですよね前ね。
00:53:45	て部位を注いです。
00:53:48	それをだから、ここわざわざ変えてるけど、別にそれをちゃんと説明するとかではなくって論文、文献をちょっとかみ砕いたらこうなるよっていう、
00:53:59	そういう変更ってことですか。
00:54:02	わかりました。
00:54:04	わかりましたというか、
00:54:06	これって、そもそもこれを教えてくださいって話なんだけど、なんで 113 とかでは、VP だけを、
00:54:16	見ていくんですそれをお作法みたいなもんなんですか、Vp。
00:54:21	VS 通電見たりしないんですが、こういう場。
00:54:35	北海道電力の渡部です。
00:54:39	選考ならてるところもちょっとあったりするんですけど、Vp と Vp は Vs を見せて、Vs が下がってるってこと Vp が下がってるってことは、
00:54:47	おのずと Vs ってのも下がっていて、
00:54:50	下がり傾向として、どちらが顕著に下がってるかっていうのは VpVs を見れば理解ができるということで、そういう形で、あまりこう入れちゃうとですね。
00:55:00	すべてがちっちゃくなってしまってるってところがあるのかなと思ってる。
00:55:03	こういう示し方をしてください。
00:55:06	わかりました。
00:55:11	はい。考えはわかりました。あと続けて僕は、
00:55:15	このとって、1 定期抵抗のところも一気に確認していきたいと思うんですけれども、
00:55:20	あとはね、117 ページで、
00:55:26	前回まではどっちかという山谷の知見を

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:55:30	ちゃんと説明して、市は1一井原の知見もこういうのもありますっていうのは、位置付けだったんだけども何か
00:55:40	両方ちゃんと説明しますっていうような話に聞こえたんですけど。
00:55:46	117 ページのこの市原に対応するような、
00:55:51	これ、この鉛直断面の、
00:55:55	食堂断面っていうのはそれはないんですか。
00:56:05	北海道電力の渡部です。今までのヒアリングで、山谷さんを代表に見ますよっていう書き方をされていて、
00:56:14	ヒアリングまでも何度か、
00:56:16	ご意見とコメントいただいたときに、
00:56:18	なぜ代表にするんだみたいな話もちょっとあって、改めて考えたときに、市原さんで示してるものと山谷さんも基本同じだって言ってるんですけど、
00:56:29	市原さんの方が規模感としてより大きく示されているので、あんまりこう代表にさせる必然性ってのは確かに、
00:56:37	薄いかなと思まして、両方を見て、うちの地震はと比較してどうなんだっていう見せ方がいいんじゃないかと思って形を変えました。その際に、市原さんに対応する断面切っていないのかっていうところでいくと、
00:56:51	すみません、現状で、
00:56:53	持ち合わせていないっていう状況なので、水平断面は持ち合わせてございましたので、それを対応したという状況になってございます。以上です。
00:57:02	はい谷です。これあれですかね今後、今後って言い方もあれですけど、
00:57:08	これに合わせた鉛直を切ろうと思ったら
00:57:11	それほど新しいデータ取りに行くわけじゃないから、切れるのかと。
00:57:17	ことですね。
00:57:18	確かにだからこう並べるんだったら、
00:57:21	前も僕ヒアリングとかで聞いたんですけどどれぐらいの
00:57:27	どれぐらいの範囲のものだったら取られるのかっていう話をしたときに、
00:57:33	一井井原の方が大きいような、
00:57:37	はい。
00:57:38	の話をしているので、
00:57:40	これだったらひょっとしたらですね、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

00:57:44	地震波速度等、何か対応するような話もひょっとしたらできるのかもしれないなかったりとか、ちょっと、
00:57:52	わかりました状況は、
00:57:54	とにかく知見を二つとも同列として扱ってるっていうことで、
00:57:59	はい。
00:58:04	後ね、ついつい
00:58:07	続けてね、これ全然飛ぶんですけど、
00:58:11	クッタラのところで隆起してる感があるけれどもそこは低 VpVs、違う違う。
00:58:19	その話どこでしたっけ。
00:58:21	ただ、隆起傾向があることを地震はトモグラフィーで説明しているような、
00:58:27	ところが、
00:58:45	北海道電力の渡部です。ID は 177 ですね、177 の地殻変動で、さあ解析で、
00:58:54	麻生です。
00:58:55	から入って行って、178 号に続いていきます。
00:58:59	これちょっと私も
00:59:01	ちゃんとかう理解できているか。
00:59:03	ていうのがあるんで確認させて欲しいんですけどこのサー解析っていうのは、
00:59:08	そもそも期間とか期間というのは、
00:59:14	時間範囲ですね、期間とか
00:59:17	或いはその発表してる期間、規制庁の今年度によって、若干
00:59:26	隆起してるのが強調されてたりそうでなかったりするってそういうことなんです。
00:59:36	やっぱり隆起は隆起はしているんだと、例えば 2、2000、
00:59:41	23 右側の絵を見ても、これは隆起を隆起しちゃしているところの範囲っていう説明なんです。
00:59:55	左が気象庁の 2020、
00:59:59	22 ですね。
01:00:01	これに対しては隆起傾向があって注釈をちょっと振って※1 なんですけども、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:00:07	歩行気道で約3キロ、軟膏軌道で4キロセンチ家族変化が確認できるか。
01:00:12	電離権補正を行っていないのでノイズが町長してる可能性があると言われていて、こいつの重畳の可能性もあった上でこういう知見として出されて、
01:00:21	出されている状況ではあるんですけども、自社として、この膨らみが地下構造と何らかの関係しているものであるのかないのかっていうのを探ってみたというところで、
01:00:32	178以降に、
01:00:34	結びついていくと。
01:00:36	はい。
01:00:38	右側の、この工藤千璃委員。
01:00:42	これを見ても北海道電力としては、やっぱりこの辺黄色っぽいから、
01:00:47	隆起しているっていうふうに思ってる。
01:00:51	いえ、これは177のしか下の四角囲み、管掌佐治系列解析最新版っていうのがその右の下の図と対応していくんですけども、
01:01:00	こちら見ていただくと、
01:01:02	クッタラ登別火山群規模の顕著な地殻変動は、そもそもこれでは、
01:01:07	示されていないと考えています。
01:01:10	同じサー解析なんですけども発行してる年度。
01:01:14	やり方によって見え方が違っていて確かに、
01:01:17	ノイズっていう可能性はあるのかもしれないとは思っているんですけど、もう一度考えられる以上というのは、余りにも検討して足りないんじゃないかなと思って、地震波速度構造に持っていったとか、
01:01:29	わかりました。もうこれ、北海道電力としては、
01:01:32	念のためっていう言い方もあれですけど、こういうのデータをそろえて、
01:01:40	隆起していると仮定してそれを説明をしているという、
01:01:45	ふうに私は取ったそんなそういうことですね。
01:01:48	で、
01:01:49	ここ、これを地震、地殻変動、179ページで、これも地震はトモグラフィでとられました。
01:01:58	確かにねこれはね。うん。
01:02:01	ここの説明はねさっきの支笏とかどう比べて、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:02:07	立位隆起しているっていう範囲と。
01:02:11	これ合ってるっていうことなんすかねて Vp 領域、低 Vp、Vs 領域が、これはぴったり合ってるような、
01:02:22	ことで、ここいるのはもうはっきりととらえる。
01:02:26	そういうことなんですかね、ここはだからちょっと、
01:02:29	何か
01:02:31	地震波速度構造とし、
01:02:33	で見るには、何か解像度の問題とかもともと何かありそうなところなんだけれどもこれはしっかりとらえる。
01:02:41	そういうことなんでしょうか。
01:03:01	なんかね僕はな話を整理してて、谷中念のためやってるって言うけどすごく一致して、すごくて、私は、
01:03:12	ちょっと、
01:03:14	主幹も入ってくるんですけども、何か説明の矢印のところに確かに低 Vp 領域はある。
01:03:22	矢印のところ、確かに低 VpVs 領域よりもねって、これ見てて思うんですけども、
01:03:28	これはとても合いが良いっていうことなんですかね。
01:03:34	北海道電力の渡部です 179 ページの地震は、N-S 断面示してごさいますけども、ちょうどクッタラ行
01:03:43	半分に、
01:03:44	割るような断面になってまして、先ほどの 177 の左下の 2 枚あるうちの右側の絵見ていただくと、クッタラ工程やしてごさいます。
01:03:55	その N-S 北側に赤い
01:03:58	広域で膨らんでる領域っていうのが認められてごさいますので、断面の位置としては合っていて、
01:04:04	見えてるものとしては、
01:04:05	位置関係は合ってるんじゃないかと思ってごさいます。以上です。
01:04:12	井谷です。だから合いがいいから、
01:04:16	隆起してたととしてもそれは
01:04:20	ここで水の存在で説明できる。
01:04:23	と、そういうことですかね。
01:04:26	はいはいはい。
01:04:28	説明の流れは、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:04:30	ちょっとわかった気がします。
01:04:44	あとはね、すみません何か思いつきみたいにどんどんこう言ってますけど、
01:04:50	この 137 ページで、支笏、これ最後の物理探査の項、
01:04:56	総括をしてるんですけども、
01:05:01	これねえ。
01:05:02	99 ページにもう、これ。
01:05:05	ウワー、物理探査以外も含めて総括をしている。
01:05:08	んですけども、
01:05:10	この関係っていうのが、
01:05:14	何て言うのかな 137 ページの方が若干詳しくわかったことをしっかり書いているのかなと思いきや、
01:05:23	何かそういうふうにも、
01:05:25	見れない。いやようようするにですよ。
01:05:29	いいのか、137の方が詳しく書いてるっていう関係なんですか。ここ、この
01:05:41	だからこれあれですか 199 ページに書いてることは、私なんかわかってきた、抜けが抜けなくここには書かれてるっていうことですかね。
01:05:51	はいはいそれだったら、うん。
01:05:53	いいですというか、わかりました。ちょっとこっちをよく見るようにします。
01:06:02	はい。
01:06:03	それで、ちょっと話また変わって、99 ページ。
01:06:08	下、今度活動履歴のことをちょっと確認したいんですけども、
01:06:13	やっぱり主張されたいことが何なのかっていうことなんですけど、これ活動履歴ってここが一番こうシンプルに書かれている。
01:06:23	支笏カルデラの巨大噴火は 1 回ですよと。
01:06:28	僕は、
01:06:31	木場噴火の頻度、
01:06:34	噴出物体積が異なる。
01:06:37	ていうことを説明して、
01:06:39	カルデラ期のような状態には至っていないと考えられるってしてるんですけど、何かこの辺がですね。
01:06:50	やっぱりよくわからなくて、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:06:52	1 回であること。
01:06:54	1 回だからどうなん。
01:06:56	ですか、っていうのと、
01:06:59	あと、噴火の頻度。
01:07:02	頻度っていうのは、どっちがどうだっていう話をしてるのか、噴出物堆積っていうのはどこどこ。
01:07:11	比べて言ってるのかっていうのを、
01:07:13	ちょっと確認させてください。これ階段ダイアグラム 102 ページ見たらいいんですかねこれ階段と何かわかりやすくなってありがとうございます。
01:07:24	階段ダイアグラム使って、もうちょっと詳しく説明してもらっていいですか、なぜこれで。
01:07:32	うん。
01:07:32	ていうんすかね。巨大噴火の可能性。
01:07:36	を評価できる根拠の一つになるのか。
01:07:56	はい北海道電力箕輪です。102 ページ今回、拡大した、
01:08:03	階段ダイアグラム載せてますけれども、
01:08:05	まず、規模という、
01:08:08	手術物堆積という意味で言えば、
01:08:11	真ん中ほど、年代でいうと 40kA の、ちょっと左の方に巨大噴火と、
01:08:16	開いてスキー地の巨大噴火載せてますけれども、
01:08:23	100
01:08:25	120。
01:08:26	うちよりざっと 20 立方キロメートルで書いてますけれども、
01:08:30	それと比較して後カルデラ期としているところ。
01:08:34	丹羽さん、福士にはアルマイトありますけれども、
01:08:39	基づいてる文献で、
01:08:42	後カルデラ期のものについては、一括されて表現されてますので、
01:08:46	絵にはトップについて一括して表現されてますので一括した階段になっ てはいるんですけども、
01:08:51	明らかに規模としては違う。
01:08:54	ということで考えています。頻度についても、
01:08:57	階段ダイアグラムの体積を一括して書いてる関係で
01:09:03	細かい頻度が、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:09:05	大学の部長はなかなか表現しきれませんが、次のページの活動利益の表を見ていただければわかる通り、
01:09:13	巨大噴火は4万年前、約4万年前に、
01:09:16	いっぱいでしたけども、それ以降唐木では、
01:09:20	かなり短いスパンで、小さい効果が、
01:09:23	起きていることがわかるかな。
01:09:26	以上です。
01:09:31	谷です。
01:09:33	こっカルデラキーの方がちょこちょこちょこちょこ来てますよっていうことで頻度がかかなり高いんだってという説明ですね。
01:09:42	うん。
01:09:44	で、噴出物の堆積ってというのは、
01:09:49	巨大噴火のときの短い期間に一気に大量に増えているけれども、
01:09:55	それ以降はそんなことがないんですよっていう話ですか。
01:10:00	なんかね、多分それがまず伝わってこないのともう1点は、やっぱり巨大噴火の前に、
01:10:07	その頻度っていう観点ではどこまで、
01:10:11	どんな頻度だったのかっていえるのかなあって。
01:10:16	いうのも、
01:10:17	ちょっとね
01:10:20	間考えて、よく、よくわからない、要するに巨大噴火が起きてることで
01:10:27	言ってみたら地形的にも、
01:10:29	マグマ的にも小中上書きされているような、
01:10:33	ようなところもあるんじゃないのかなとか。
01:10:36	その辺が、今のこの品同っていう言葉とかで、
01:10:41	本当に適切に説明できているのかなっていうのをちょっと感じたんですけども、もし何かその辺、まずねこの
01:10:49	この理屈を、
01:10:50	この今の文章だけでは、なかなかこう説明されていることがよくわからなくて、
01:10:58	どうして1回っていうのとか頻度をやる体制が異なることが、
01:11:05	今状態が違うんだって言うてるのかっていうのも、もう少し
01:11:10	わかるような記載にさせていただけたらなというふうに思いますそれと、当然ですよ LERF、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:11:17	規模、噴出物体積が違うってそれはカルデラの時期と今と比べてそれ違うのに当たり、当たり前というか、
01:11:26	だって今から
01:11:27	してない。
01:11:29	している途中じゃないけど、直前かもしれないとかいう話をどうこう、否定されてるのかなっていうのがよくわかる。
01:11:38	わからないので、
01:11:41	何か伝えたいこと、主張したことがあれば、
01:11:44	書いてもらったり、
01:11:46	はっきり言えないんだったらこの活動履歴からはっきり言えないとかいう、
01:11:50	それはあるのかもしれないので、
01:11:54	これ、
01:11:55	何か今、
01:11:58	あります
01:11:59	私が言ってることがちょっと若干こう、そうじゃないんですとかいうのがあれば、
01:12:04	聞きますけど、
01:12:15	北海道電力の渡部です。まず、1回っていうところに、
01:12:20	何か意味があるのかっていうところだったんですけど、仮にこれが2回とかあると。
01:12:25	巨大噴火と巨大噴火の間の、
01:12:28	間隔は何万年で、
01:12:30	最後の巨大噴火からもう何万年経ってるから、時間的には十分経ってるんだみたいな議論が成り立つしガイドでもそういったことが書いてあるので、それが一多分、
01:12:40	支笏とか洞爺とかクッタラの場合は、それぞれ巨大噴火を1回と。
01:12:45	してますので、その議論がちょっとできない状況に、
01:12:48	あります。ここで1回何の意味があるのかっていうところでいくとその議論ができないので、ただ実績として1回ですっていうことを書いてるにすぎないのでまずそこが少し、
01:12:58	わかりづらくさせてしまってるかなあと考えてございます。
01:13:02	巨大噴火のスパンとか最後の巨大噴火から今までの経過期間という議論ができないので、ここでいえることって、やはり、巨大噴火のときと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:13:14	今の後カルデラステージっていう状況に入ってきていると。その後カルデラステージに入っている現況は、噴火してる頻度っていうのがかなり頻繁に、それは巨大噴火の時代に比べれば、頻繁に行われていて、噴出物堆積っていうのも、
01:13:27	オーダー的にも違ってくるという状況になってますよというところをもう少しわかるように、
01:13:34	検討させていただければなと思ってございます。以上です。
01:13:46	はい。はい、田野です。
01:13:48	そうですね。ちょっとその辺の考えを1回私も理解し、理解して、主張されたことを理解してから、もう少しこれを考えていきたいなと思ってて、
01:13:58	多分それは支笏カルデラの話で、藤遠山も似たようなことを書いてるんだけど洞爺では、何か違う点があるんですか。
01:14:11	全く同じっていう市長基本的には一緒ですね当山を今後カルデラ期に入っていて、過去の巨大噴火1回っていうところでいくと、支笏と考え方としては同じになってきます。
01:14:23	はい。はい。頻度も、
01:14:25	頻度も、
01:14:27	巨大噴火のときよりは、
01:14:30	頻度は高い。
01:14:33	一般的になっていえるのかよくわからん相対的に頻度が高頻度ってことになるんですけどその頻度と体積が異なるって言われてしまうと確かに、どう異なるのっていう話。
01:14:44	なってくると思いますので、
01:14:46	もう少しわかるようにさせていただければと思います。
01:14:51	クッタラはですね、
01:14:53	これは多分ステージ論みたいなことを言ってるのは、
01:14:59	おそらくこれまでのね審査の実績からいうと、ステージローンって、
01:15:05	今こういうステージだから大丈夫ですっていうそのステージがこうあるからっていうのだけでは、
01:15:11	さすがに使えないなと。
01:15:13	というような話もあったと思うので、
01:15:17	うん。
01:15:23	ステージの価格のはいいいですけど、その根拠にどこまでこうなんか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:15:29	使う、使うつもりなのかっていうのは、
01:15:32	ちょっと考えてもらえたらな。
01:15:35	思います。
01:15:38	北海道電力の渡部です。承知しました。
01:15:41	おっしゃる通り、活動履歴だけで、
01:15:43	全部が全部ステージローンとかで否定できるわけではないというふうに私と榎田も考えてございまして、それもあって、
01:15:50	至っていないと考えられるぐらいの、最後末尾にして、そこの足りないところは地物で補填して総合的にどうなんだっていうふうに言いたいなと思ってますので、
01:16:00	その言葉の使い方、もう少し検討させていただければと思います。以上です。
01:16:06	そう、そうですねこれはだからあれか。
01:16:11	巨大噴火を、
01:16:13	が起きそうな他の性があるような地形にはなっていないよとかそういう、
01:16:17	話で整理するんだったら、
01:16:20	それです。
01:16:21	そう、そうであってもいいと思いますけど、ちょっとその辺は、
01:16:26	見さしてもらおう。
01:16:39	あとはですね。
01:16:44	ちょっと何かざくっとした話を聞くと、
01:16:49	遠矢は、
01:16:52	指定校、
01:16:53	九州、北海道電力独自でやりました。
01:17:00	してくると試掘とかっていうのは、
01:17:03	北海道電力としては、どういう調査をし尽くしたかっていう観点でいうと、
01:17:11	どう、どう答えますか。
01:17:14	しっかりと文献を集めましたとかそういう話になるんでしょうか。
01:17:23	北海道電力の渡部です。
01:17:25	文献調査は、網羅的に審査会合での指摘も踏まえて、調査の限りを尽くしたと考えてございます。今後、文献さらにアップデートされていくと

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	は思うんですけども、今時点で集められるものを集めていると考えてますそれは、
01:17:39	一つもとうやも同じだと思ってます。
01:17:41	遠矢の場合は、
01:17:43	地質調査で、敷地近傍に火砕流堆積物、もしくは洞爺の降下火砕物がサーージか。
01:17:51	区別が判然としないというものが確認されている。敷地の近くまで堆積物が来ていると。
01:17:57	いう状況も踏まえて、地球物理学調査のうち、MT 探査っていうのを自前で実施しているという状況になります。対して支笏クッタラの場合に関しましては、
01:18:08	敷地近傍にその噴出物が認められていないという状況が洞爺と圧倒的に違う状況かなと思ってございます。それを踏まえたときに、今やれる地球物理、地球物理学的調査の中で、
01:18:22	地震はですとか MT ってあるんですけども、それらについては、現況、公にされている文献を霊枢するということで足りるんじゃないかというふうに考えてございました。以上です。
01:18:35	が起こりました。そんな答えになりますね。
01:18:38	そうなってくると、
01:18:42	ちょっと
01:18:44	きつくしたっていうのもっとこうハード的な面も含めてとか、イメージがちょっとあるのはあるんですけどもそれはちょっと置いていて、
01:18:54	支笏カルデラを評価できるような手法、僕らのやっぱりこれまでの、
01:19:02	審査実績とか見てもらうと、やっぱり Melt があるかないか、上部地殻、そこは重視している。
01:19:09	そんな状況に、
01:19:12	置いてそこ判断できるような、
01:19:15	何て言うんですかね四方或いは
01:19:18	そういう知見、
01:19:20	あり、
01:19:22	いろんな
01:19:25	手法、もう、
01:19:28	網羅的にこう見ていった中で、やっぱりこう、
01:19:32	これぐらい、これぐらいっていう言い方失礼ですけどこの、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:19:36	トモグラフィート、地震波速度、
01:19:40	小構想。
01:19:42	あとは地震はとかやられてますけど、そういったことにもう尽きてしま うんでしょうか何かその他の可能性みたいなのも、いろいろ
01:19:52	あと、
01:19:54	探ったりしてきている可能性はもう、
01:19:58	考え尽くしてこういう、こう、
01:20:00	説明になってる。
01:20:02	ということなんですかね。
01:20:31	ちょっと有効かどうかは別にしてですね、例えばその組成を見たりとか ですね、何かビデオ検層みたいなみたいな。
01:20:38	話があったりとか、
01:20:41	それは
01:20:42	すごく有効かというふうに、別ですけども、或いは、
01:20:45	温度構造とか、
01:20:48	何か。
01:20:49	言葉をパッと聞くと、ひょっとしたら評価できるかもしれないようなも のってというのが、
01:20:56	この
01:20:57	際、最近の研究とかではありそうな
01:20:59	ありそうなというか、それが使えん適用できるかどうかは別ですが、
01:21:04	ある中で、北海道電力として、
01:21:07	まあまあ、基本的にはこれで十分評価できるんだという資料作ってるん でしようけど、その他の
01:21:14	何か、
01:21:16	模索っていうのをどれぐらいしてるのかなっていうのを、今日聞いたとき たいなと思ってこんな質問してるんです。
01:21:39	北海道電力の渡部です。
01:21:41	組成っていう判定に行くと、ちょっと的外れだったら申し訳ないんです けど、
01:21:48	産総研さんの研究か何かで、
01:21:50	軽い C、
01:21:52	の組成を見て、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:21:55	それがどのぐらいの深度のマグマだまりであったかみたいなのを見ている。
01:22:01	確認したとかっていう地形を確認はしてございます。その時に、
01:22:07	それで過去の実績、
01:22:09	過去のものに対して、江藤、今その時考えたのか。
01:22:14	支笏洞爺っていうのが、過去の巨大噴火は 100 立方キロを優に超える、
01:22:20	超巨大噴火をしているわけですし、今回私たちが相手にしなきゃいけないのは、決してそれだけではなくて、
01:22:27	数字でいくと多分 20 立方キロを超えるぐらいの、今ガイド上の巨大噴火ってのは数十立方キロを超えるものと言われているので、過去の洞爺支笏と同等じゃない場合っていうんすかね。
01:22:39	それよりも規模が小さいものとか、
01:22:42	そういったあらゆる巨大噴火を潰すっていう観点でいくと、
01:22:46	組成から何かっていうところは、ひょっとしたら、
01:22:50	難しいのかもしれないなど。
01:22:53	ていまして、現状、何かをしてるかということ、そういうことは、
01:22:57	対応としてはしていないっていう状況でございました。以上です。
01:24:11	はい。うん。
01:24:15	うん。北海道電力の考えは、確認できました。
01:24:22	それは数、そうであったとしても、何かね。
01:24:28	できることを、失くしたかみたいなことは、多分あるんだと思うので、そのデータっていうのは、
01:24:35	あれなんですか。
01:24:38	とろうとしたけどやめてあるんです。
01:24:42	ないんですね。はい。
01:24:45	うん。
01:24:46	状況は一応わかったつもりです。
01:24:54	ひょっとしたらね、こういう話も会合であるかもしれない
01:25:16	んであれですかね、何か組成をどうこう言うようなデータなり、
01:25:21	知見なりとかそういうのも、
01:25:26	何でしたっけ。加古。
01:25:29	あったとしても、何、何も言えないんです。
01:25:50	そうです。
01:25:52	清を調べてるっていう知見は、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:25:54	かなりある。
01:25:55	認識してるんですけど、
01:25:57	規制庁さんといった広告とか、そういうのはある程度認識して、それをもって
01:26:02	将来起こり得る巨大噴火の、
01:26:05	マグマだまり、
01:26:07	深度がどうこうっていうところまで、
01:26:10	やっぱり、
01:26:12	ここまでの知見というのはないのかなと思っていて、それは自前なり文献で示してくれている、地球物理学的調査、
01:26:22	もしくは今網羅的にやっている文献調査で、近い将来の巨大噴火の可能性を論じている文献がないようであるとか、履歴を整理していくと。
01:26:33	今の置かれているステージっていうのは、
01:26:36	噴出物の量、噴出物の頻度っていうのが、量は少なく、頻度は高頻度っていうところが、
01:26:42	当時の巨大噴火とは差別化できるっていうような、
01:26:46	ところになるのかなと考えてございました。
01:26:55	はい。この辺、状況確認できました。
01:27:00	はい。すいません、資料からちょっと外れたことを言ってしまう。
01:27:05	あとはね、また何かさっきの話に戻ってしまいますけど、結局、
01:27:11	小松のヒアリングでも聞きました。今日、それ佐藤さん聞きました、巨大噴火が可能な量のマグマだまりっていうのは、
01:27:20	どういうことを、どういう規模をね、想定しているんでしょうかっていうような話を聞いて、
01:27:27	すいません最初に聞けば、それがさっきの、
01:27:31	カルデラを超えるような規模のとかそんな話になるんですけど、
01:27:43	これはやっぱり答えられないんです。
01:27:47	巨大噴火が可能な量のマグマだまり、北海道電力生田目です。
01:27:52	先ほどのページで、
01:27:59	83 ページの矢印の下で、別紙 3 の 2016 を踏まえた
01:28:05	当社のレビューを入れてますけども、
01:28:08	巨大噴火を発生させるためにはという巨大噴火に注釈入れてございます。
01:28:14	開度で数十立方キロ程度を超えるようなものとされてます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:28:20	はい。当方としては、その巨大噴火における堆積は 20 立方キロ以上、 20 立方以上も、
01:28:28	というふうに定義づけしてます。
01:28:31	巨大噴火が可能な量のマグマだまり、これが 20 立方キロ以上程度以上 でこの
01:28:38	可能な量のマグマたまりは何かというと、いわゆるマグマチャンバと言 われている結晶量が 50% できる。
01:28:45	液相として振る舞い、
01:28:48	それがあるということはその周りに部分溶融、
01:28:51	プリさるマッシュ結晶が 50% 上回る固相として振る舞わも当然 Melt は 含んでますけどもそれがあって、
01:28:59	さらにその広い範囲に、巨大なマグマシステムが広がっている。
01:29:03	考えていてこれらは、カルデラを超えるような範囲に分布しているだろ うというふうに考えているところです。以上です。
01:29:12	はい、谷です。そういうことになるんですね。
01:29:16	なんかさ、それを、
01:29:18	私がただ単に計算していくと、噴出物体積を 20 立方っていうので 50% ってなったら、
01:29:29	40 立法とかそんなイメージなんですかそれとも
01:29:35	に、50% のまず
01:29:38	が入ってるような、
01:29:39	6 行雪が全部、
01:29:41	だから 20 立方
01:29:43	でしょうか。どっちなんですか。
01:29:45	結晶量が 50% を下回るマグマチャンバーとしてそれ、結晶も含めて、 Melt も含めて、そこの体積が 20 立方キロ以上。
01:29:55	答も含めて、
01:29:57	これを否定するには 20 立法を
01:30:03	があるかないかっていう話をした、それをとらえに行かなければならな いんですけども、これだけが存在するかっていうと、必ずその周りに
01:30:12	部分溶融域が存在してくるはずで、そこにもメール等は含まれてござい ますので、
01:30:17	その Melt に対しては、周りの近くに対して、
01:30:21	検知能力として必ず低速度領域、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:30:24	低比抵抗領域になってくるので、もう少し広がりを持ったエリアとして、
01:30:29	見えてくるはずだと。
01:30:32	井谷です。はい。はい。今後、確認できました。
01:30:36	プラスして聞くとね、これ洞爺のところには、
01:30:41	194 ページです。3 キロを超えるような大きさのマグマだまりは存在しないと考えられる。
01:30:48	ものの、
01:30:50	ものの小さなものについては規律が困難であると。
01:30:53	ここがちょっと引っかかったんですけども、
01:30:57	3 キロってこれなんですか、3 キロってこう。
01:31:02	幅、高さ、
01:31:04	3 キロのキューブみたいなイメージなんですか。
01:31:35	北海道電力の箕輪です。ここに今 196 人。
01:31:40	の黄色い箱で書いてある衛藤さん丸めの、
01:31:44	ところの、
01:31:50	3 マル目で書いている中嶋白田直下の震度 3 キロ程度には定期テイク利益が認められるっていう話だと思うんですけど。
01:32:00	これその後ろに、
01:32:04	県で 199 ページについつけている。
01:32:07	通松嶋さんの文献、
01:32:10	引用してますけども、
01:32:12	ここでは、
01:32:15	マグマだまりの
01:32:18	マグマだまりではなくて熱水変質体というようなこと。
01:32:22	いけますので、
01:32:26	全部に白田町から浅部に 3 キロを超えるような大きさのマグマだまりは存在しないと。
01:32:32	うん。
01:32:32	国、
01:32:35	考察しております。
01:32:39	うん。
01:32:40	谷です。僕が聞きたいのこの 3 キロっていうのが何か意味を持って、
01:32:46	今

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:32:47	監事要するに3切ろう3キロを超えるようなものがなければこれ巨大噴火になるようなことがないんだって言って事業し、
01:32:55	北海道電力が主張しているということ。
01:32:57	なんですよ。
01:32:59	これ、逆に聞くと、
01:33:02	何キロぐらいのマグマだまりだったらかいいう話を、
01:33:06	何かイメージあるんだったら教えて欲しいなって思って。
01:33:25	北海道電力の渡部すいませんこれちょっと蛇足な表現ですねと思いで、文献踏まえた時に我々として言いたいのは、根質変数熱演主体ですよ。
01:33:35	いうことを言いたいだけであって、さらにそこからマグマだまりはないっていうのは、文脈として少し確かおかしいので、当社として言いたいのは、
01:33:44	熱水変質だと考えられるまでが正しいので、少し適正化させていただきたいと思います。
01:33:51	はい、丹です。
01:33:53	うん。
01:33:55	これが、うん。
01:33:57	これを否定できればいいのかっていうような経な話になりそうな気もしたので、ちょっとここ、ちょっと、
01:34:11	うーん。
01:34:12	藤。
01:34:14	もう一つはね、ちょっとできたらレビューをってお願いしたいのが29ページで、やっぱりクッタラ登別、これ、
01:34:24	クッタラの堀部通は
01:34:28	この間のうちの確認もあって、
01:34:33	米なのってはっきりまあまあ言えないけれどもそういう知見もあるよというのを北海道電力としては、
01:34:42	そういう知見もあるんだし、ここはちゃんと評価しましょうっていうような感じで、
01:34:48	抱えてるといことなんですけれども。
01:34:50	なんかねこの辺の07の知見っていうのを、
01:34:55	どういうふうに、これは宮坂で言われてる中で、どういうふうに計算されて、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:35:02	出て、何か
01:35:04	層厚の比で出してる。
01:35:06	そういう話だとか。
01:35:08	或いは安間宮坂には、
01:35:10	ここのKTなんていうのは、
01:35:13	範囲は、
01:35:15	範囲は、
01:35:18	どの、どの範囲でね、支笏火砕流が出て、
01:35:22	分布しているかとかそこまでないですよ。ここの人とこの人とこの実験、
01:35:27	確認しました。
01:35:29	で、そういうものの中でどう、どういうふうにかこう評価されて7になっているのかっていうのぐらいをちょっと、
01:35:37	何か、資料で入れてもらえたら、何かここ、この辺が、
01:35:46	簡単でいいと思いますけど、
01:35:49	北海道電力渡部です。
01:35:51	文献の中に、算出方法を簡単に記してあったと記憶してございますので、その辺りの算出の考え方、入れさせていただきます。以上です。
01:36:03	だからこういう、ちょっと、
01:36:07	す。何南里藤っていうはっきりとしたようなものではないけれども、KTH との登記とかで何か出しているんだとかいうのであればですねそう、そういうのも含めて、
01:36:18	んだけどしっかりやるっていう話なのかっていうのが確認できるのかなと。
01:36:23	思うので、
01:36:25	ぜひ、できれば入れて欲しい。
01:36:38	でですね、もう1個はねえ。
01:36:48	立地評価。
01:36:49	最後、
01:36:53	可能性が少ない。
01:36:54	なんか一覧表で書いてますよねどっかで。
01:37:03	概要で見たら、
01:37:20	なんか一覧表で、この
01:37:24	土石流、あ、これ、39 ページか。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:37:27	これね多分、十分小さい十分小さいということなんだけれども、もう
01:37:34	もちろんねこれ資料見ていけば、どっかのページにこの十分小さいとい うのはわかるんですけども、
01:37:41	何で十分小さいのかっていうのが、
01:37:45	わかるような一覧表、何の検討やってるのかって、火山ごとにちょっと 違いますよね。場合によって羊糞流シミュレーションやったりとか、
01:37:53	何とかによって、
01:37:55	どうだ。
01:37:56	これ到達をしていないから、十分小さいとか、その辺の
01:38:03	もう一つ工夫があればですね。
01:38:05	これ、僕らも
01:38:08	論拠、それぞれの評価がどう違うのかとかいうのも、
01:38:13	見やすいという
01:38:14	ところで、
01:38:15	できたらそういった、
01:38:17	整理していただけたら。
01:38:29	併記をすべきです。ちょっと今のところ補足するとですね。
01:38:33	今これ、230 ページのこれバーって、これどういう意味でバーというの を使われてます。
01:38:42	これあれですかね、ガイドの 41 (1) で一応降格云々この概要の表に載 ってるものより距離が遠いものは、検討対象外とすることができるので きる、のところではじいてる。
01:38:54	そうです。ですかね。
01:38:56	なんか、4 ポツ (3) でも一応なんか国内最大の到達距離であんだ。
01:39:01	最後、どうしてもできないものはそれで判断するとか、いろいろ規定は あるんですけど、
01:39:05	多分この辺のところ、
01:39:08	でも御社と同じぐらいに 10 個ぐらいある。
01:39:11	潜航巨大噴火なんかも見ている先行のサイトとかだと、やっぱりこうい うのって、1 枚の表でバシッと、どういうはじき方をしたかって、簡単 にわかるようになってるんですよ。
01:39:22	もちろんその詳細は後、説明があるんですけど、
01:39:26	うん、結構表で、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:39:28	河西さん、どういう形で検討不要としているのかとか、距離ではじいているのか、何かシミュレーションではじいてるのかっていうのは、
01:39:37	ちょっと私も今パッと先行サイトのやつ探したりして、やっぱ6ヶ所とかのやつを見ると、結構初めのところで、
01:39:45	基本的な考えっていうのもわかるように、
01:39:48	どうしても詳細な説明が必要だったら、広めればわかるよ。
01:39:53	あってですね、おんなじように、これは今後説明っていうことなのかもしれないんですけど、影響評価の方とかも299ページ、表になる。
01:40:05	こっちは多分対象外とできるみたいな書き方ではないけど、この299のバーもう、これは、
01:40:13	ガイドの表の、
01:40:16	影響の範囲の距離等、敷地の離隔距離で敷地の距離で、
01:40:21	距離に入っているものは何らか影響があると考えられるみたいな解説が何かで書いて、
01:40:26	ですけど、その裏返しでバーに多分してるんですよ。
01:40:30	他のものは、ちょっとどういう趣旨で、影響なし影響なしでそれは影響があったら、当然何かしらの一条問題があるのか何かしら対策を講じなきゃいけないのかってなるので、
01:40:42	結論として影響なしで説明しますなんていうのは、
01:40:45	わかりきってる話で、
01:40:48	そうずっと、どういう観点で影響なしと言ってるのかっていうのは、少なくともある程度考えがわからないと、
01:40:56	この項目はこういう根拠で影響なしと言おうとしているのか、じゃあ、これまでその実績としてはどうなんだた、何か、
01:41:03	そこで方向性が違う検討で、影響なしでようとしてるんだったら、早めにコツとしても、論点として出さなきゃいけないっていうか、
01:41:12	そういうのがねわかるようにしておいていただきたいかなと。
01:41:16	ざっくり
01:41:17	影響範囲距離、地形、
01:41:20	等って書いてある体制なので、それちょっとどういう観点で、
01:41:24	これは影響なしと説明しようとしてるのかぐらいは、わかるようにしていただきたいかなという。
01:41:40	規制庁谷です。あとはねちょっとこれ確認なんですけれども、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:41:46	後藤の評価を変えたところっていうのがどこなのかっていうのをちょっと教えて欲しくて、
01:41:53	多分これも、
01:41:55	現地、
01:41:58	現地売ってどれを見に行かなきゃいけないのかという話に関連するんですけど、何か、
01:42:06	泥代わる達とかそういうところだったかな、なんか。
01:42:09	前回会合からここ変えましたよっていう、
01:42:13	ことか何かありました。
01:42:17	これか。
01:42:18	これって、
01:42:22	今日はダイイチ能フォローに露頭1ほどに、五島新居泥川露頭を、
01:42:30	ていうのが、これ評価が変わった。
01:42:33	丹です。
01:42:35	変わったん、データが追加されて評価は変わってないんですけど、ちょっとこの三つ。
01:42:42	ここにある四つのろうと思う。
01:42:44	助教か簡単に教えてください。はい。
01:42:47	今日はダイイチの茂呂に露頭位置っていうところに、これまで地質の方の評価では、赤色の火砕流用の堆積物と、
01:42:57	言われていたものがあつたのを、火山灰分析等、ちょろっと変わっちゃったんですけど最新の露頭観察の結果を踏まえて、
01:43:06	評価を見直し、斜面堆積物っていう評価の見直しをかけてます。
01:43:11	幌似露頭っていうのは、積丹西岸でやっていた火山灰質等と書かれているものが一体何者かっていう取り組みを、こちらの共和台地にも水平展開してきまして、
01:43:23	何ヶ所か火山灰質火山灰質砂とかって書かれているものに対して分析をすると、ガラスが検出されないということで、
01:43:31	火山砕屑物からなるものではないですよという整理にしていますけど下も同じ扱いでして、火山灰質って書かれているものがありまして、
01:43:41	積丹西岸の考えを踏襲して、追加の火山灰分析をすると、ガラスが検出されないの、火山砕屑物力のあるものじゃないですか。
01:43:50	そうです。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:43:51	今の部屋西部に関しましてはこれ前回から今回新しく入れたんですけども、
01:43:56	梨野舞納地点っていう梨野舞納露頭の底盤からさらにボーリングを掘っている。
01:44:01	点がございます。梨野舞納地点というのが、
01:44:04	敷地の審査の中で、
01:44:06	洞爺の火山灰があって、封清掃があって MIS5e があって下に岩内層、
01:44:12	セットで見えてきてる地点になるんですけども、
01:44:15	その中で、
01:44:17	同じように共和台地と同じように火山灰質っていうもの、何か残してるものがないかっていう目で見ていくと、震度 6 メーターぐらい。
01:44:26	50 改正堆積物の中なんですけど
01:44:29	火山灰質っていう記載が、
01:44:32	麻生です。そこをやると、ガラスがやはり検出されないので、
01:44:36	主に火山砕屑物からなるものではなかったっていうような
01:44:39	にしてございます。以上です。
01:44:41	はい谷ですこれは露頭じゃないんですねリヤムナイあああわかりますわかりました。
01:44:56	わかりますと、これあれですか会合でもこのリヤムナイっていうのは、軽くは説明されるってことですかね。
01:45:03	ここに書いてるっていう。そうですねここに書いてるということは、
01:45:08	前回の会合からの変更点の主だったものってなってきますので、
01:45:13	触れていく。
01:45:15	ことにはなるか、もしくは、
01:45:17	今日は第 1 大規模させるかちょっと時間の関係とどうなるかちょっと考えなきゃいけないんですけど、
01:45:22	少なくともこの 14 ページとしては増えていくことに当然なる。
01:45:27	はい。はい。
01:45:29	あとは、ここの中に、あれ何だったっけ。
01:45:33	ニセコの港北 6 にあった留寿都宗でしたっけ。
01:45:38	そういうのは入ってこないんです。
01:45:50	北海道電力の渡部です先ほどの 14 ページが、前回会合から評価を変えたものっていう位置付けで入れていて、それとは別で 16 ページから、
01:46:01	前回会合からの変更点の中で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:46:04	値変更はしてないよ、ワイスホルンの話で新しい話なので、変更はしてないよシリーズで、20 ページですかね。
01:46:13	20 ページのところの一番下、隅つき括弧のバイス黒子区の洞爺火砕流堆積物についてと。
01:46:20	いうものでここで、
01:46:21	記載を入れてございます。
01:46:24	はい、谷です。凍りました。これってね、
01:46:31	何て言うのかな。
01:46:34	今これが新しい露頭が、説明するために、何か KP と kt2 を含む、
01:46:43	堆積物かもしれないとか、
01:46:46	記載される。
01:46:48	で、要するに古藤家に関する、
01:46:51	調査を、まだ現地が残ってるような雰囲気資料構成上なってるわけなんですけれども、
01:46:59	これは、
01:47:01	何て言うのかな、これをうまく説明しないと。
01:47:04	何かそれがまるで論点として残ってるんじゃないのっていうような、
01:47:08	感じに思うんですよね。調査現地調査までやってますって話でしょう。
01:47:14	それなんか、
01:47:16	もう見込みとして何か書けるんだったら今書いてもらってもいいと思うし、
01:47:23	要するに塔屋であることが確認できそうだとかいう話があるんだったらそれでも、
01:47:28	いいですし、
01:47:30	何かしらここをこう、
01:47:32	どう、それ或いは評価に影響がないようなことなんでしょうかとかね。
01:47:39	なんかこう、
01:47:40	あまりこう、
01:47:43	全面に説明する必要はないと思うんですけど、
01:47:46	どういう。
01:47:47	位置付けなんかっていうのは何か説明あっていいかなと。
01:48:03	北海道電力の後、渡部です。
01:48:06	例えば今、
01:48:07	間違いなくこうだっていえる状況にはないんですけど、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:48:10	仮に、
01:48:11	文献レビュー踏まえると、あるとしたら当山啓蟄になってきます。
01:48:16	洞爺だったとすると、そこに洞爺があったとして今、当社として、
01:48:21	しき洞爺火砕流が到達した可能性を、
01:48:25	否定してるっていう状況じゃなくて、そのパターンと西岸までサージって言ったかもしれないということなので、ここが洞爺であった際に何か影響が出るかという、
01:48:33	そうはならないってことは、
01:48:35	書くことはできるかなと思ってます。一方でKP 通だった場合、
01:48:38	AT IIであれば、降下火砕物として評価しなければならないので、影響評価側で、例えば、お示ししていきますと、
01:48:46	それ以外の何物でもなかった場合っていうのは、
01:48:50	あり得る可能性としてあると思うんですけど、それについては、
01:48:55	やはり火山碎屑物なければ影響ないってなる。
01:48:58	じゃ、第三者の何かが出てきた場合っていうのは、
01:49:08	ああ、そうですか。
01:49:10	今、示して、
01:49:14	はい。わかりましたよ。ただだから、
01:49:18	立地評価との、
01:49:20	関係。
01:49:21	わかればいいかなと思って要するに、洞爺火砕流であったとしても影響はないんだけど、そうじゃない。
01:49:31	特に、
01:49:33	考えなきゃいけないので今やってますっていうんだったらそう。
01:49:38	念のためやってますなのかそれもなんか経路の可能性が高いからやってますなかでもちょっと違うかもしれないですけどね。そうですね、今かというのは、洞爺であったとした立地評価上、
01:49:49	影響は出てきませんので、もう一つ言われてる啓蟄であれば、それは影響評価の中でこうご説明していきますってことは、
01:49:57	いえるかなと考えておりました。以上です。
01:50:01	谷です。
01:50:02	確認できました。えっとね後はねちょっと細かい話なんですけれども、
01:50:08	・・・

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:50:09	23 ページ、いやこれ直してくださいって言うつもりないんですけども、
01:50:14	何かねえ。
01:50:16	札幌だけとかそら沼だけとか、わざと工場でバーを引いて残してるんですけども、
01:50:23	これって何かこの表ではもう、
01:50:26	いらぬのかなって思っててそれは適切な、本当駄目。
01:50:31	ただ、ただ、これがなくなってっていうのはどっかに書いててもらえばいい、いいかなと思いますけれども、亡くなってどういう方が評価した結果なくなったっていうのが、
01:50:40	これをずっと使うんですかっていう。
01:50:44	面白い。
01:50:45	テキキになって、
01:50:47	あとはね。
01:50:51	僕今までスルーしてたんですけども、海底火山の話をしてて、
01:50:57	ウン等何か唐突感があるんですね一方仲野ほか編においては、相手方において、海底火山もあるように
01:51:05	仲野ほか編が言っていると。ただこの領域内には、
01:51:12	何だっけ。
01:51:14	何とかしか改ざん後志会さ
01:51:17	後志改竄を北海道電力として考えて、
01:51:20	これ何で後志改ざんのことかと思ったんでしたっけそれ。
01:51:25	何か説明資料、
01:51:27	補足とかにあるんでしたっけ。なぜ、なぜ、
01:51:31	仲野ほか編が言ってることって、いやもうこの中では後志しかないよって思ったんでしたっけ。
01:51:53	北海道電力の渡邊です。後志改ざんについては、仲野ほか編では当然活動が活発じゃないので持ってないんですけども、同じ同列でカタログとして扱っている西木ほか編。
01:52:06	こちらの方に後志改ざんがプロットされてございますので、そっから見ました。
01:52:12	なるほど。単にです起こりました。だったらね、それはねどっかね、いや今どっか見たらわかるんですっていうんだったら
01:52:20	いいんですけど、それはどっかで書いてもらった方が、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:52:24	要するに、コーン後志改ざんしかないんですよってというのがわかると思う。
01:52:31	承知いたしました。
01:53:01	すいません北海道電力の渡部先ほどの、
01:53:04	回答忘れてましたけど、札幌そら沼いざりのお話だったんですけど、ホームページからは確かに何か、二重線入ってるのを、違和感があるので削除します。代わりに補足説明資料 1、2、
01:53:15	活火山のカタログ入ってて、あそこでこの目でちゃんと説明できれば、支障がないかなと思いますので、そういうような細工をしたいと思いません。以上です。
01:53:24	はい谷です。これはそのうち直してもらったらよくなって、議論には影響しないのですね。
01:53:32	お願いします。
01:53:34	あとはね、結局北海道電力が考えてる敷地の周りで出ている。
01:53:42	火山灰とかのか損。
01:53:45	採取火山性の堆積物っていうのは、
01:53:49	159 ページとかで総括されてるってことでいいんですかね。いや、ここに全部データ入ってますってことでいいんですか。
01:54:05	北海道電力の渡邊 159 って補足のいまいちですかね。はい。
01:54:11	敷地近傍の、
01:54:13	火山噴出物を確認した地点を意識、平面図で載せているもの、これがすべてになります。
01:54:24	起こりました。
01:54:29	そっか。だからここで SPF エーワンとかもまじってるよとかそういう情報も入ってるってことか。
01:54:38	あと、僕見てたら、
01:54:43	海域にもうボーリングやってて、KT。
01:54:46	II
01:54:48	あれあったと思うんですけど、その辺はこれを入れない理由は何なんです。
01:54:54	北海道電力の渡部です。
01:54:57	近傍っていうカテゴリから外れた全面会議っていうカテゴリになってたんで少しなじまないかなあと思っては、入れてはいなかったんですけども、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:55:07	影響評価で出せればという認識でいいと思うんですけど。
01:55:11	例えば、いえるということであれば、
01:55:16	そう。
01:55:17	はい、承知しました。
01:55:18	あとねでそうなったときに、ちょっと今北海道電力の考えを確認したいんですけれども。
01:55:25	敷地にまじってる SPFA 版っていうのは、
01:55:30	これって
01:55:32	SPF エーワンの項を、
01:55:35	風向からしたらこっちに向いてないはずなんですけれども、
01:55:39	これがまじってるっていうことは、
01:55:42	どういうふうにまじってきてるって考えてるのかとかあとは、
01:55:49	これ別に資料にしてくださいっていう話じゃないですよ。
01:55:52	買いか
01:55:54	海のところのね、先ほどの KTII だとかってどう考えてんですかっていうのを、
01:55:59	今、
01:56:01	わかる範囲で答えて、
01:56:04	北海道電力の渡部です。
01:56:07	治療、補足の 1-126 ページを見ていただければと。
01:56:14	思います。
01:56:15	基本的に SPF を飲む切って、
01:56:19	敷地の方も行ってないんですけれども、アイソパックとしては、
01:56:23	最新の、宝田ほか編に示されている SPF エーワンの分布図でも、アイソパックの外にはいるんですけれども、赤囲みされている地点で、
01:56:35	わずかながらそのアイソパックの外で、
01:56:38	確認されている地点っていうのもございますので、
01:56:41	そういったものの影響、
01:56:44	1 個、SP ではコンタミ、
01:56:45	すいません、とうやと対象火山灰のガラスが、
01:56:49	混在したような状態で地表付近にいるっていう形になるんですけど
01:56:53	原因としてはこういったアイソパックの外にいるわずかなものっていうのが影響してるのかもしれないなとは思ってございます。以上です。
01:57:06	会議の方はどうですか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

01:57:09	ちょっとした厚みがあります。
01:57:13	SPF エーワン。
01:57:14	KP そうですね数センチ。
01:57:18	SPD、
01:57:22	SPEEDI フェア若生センチ、KTH が 2 センチぐらいだったかと思いま す。
01:57:41	厚さと、
01:57:43	今の、
01:57:56	ちょっと今、性急に、
01:57:58	申し上げづらいところなんですガラスの数はそれなりに入っているとい うところがあるので、今後、
01:58:04	先にお示しするときに、いわゆる当社で言っている 2 次なのか、何とか B だとか純層なのかっていうのを、
01:58:11	報道も見ながら、
01:58:12	ご説明できたらなど。
01:58:19	すみません、訂正させてください。支笏が前面海域だと 2 センチ、刑律 が 5 センチです。
01:58:52	規制庁佐口です。
01:58:54	ごめんなさい、細かいことで、
01:58:57	今回追加していただいたというか拡充していただいた、290。
01:59:02	7 ページとか 8 ページ以降なんですけど、
01:59:11	ちょっとさ、300 ページとかで見に行っていくと、これひょっとした ら、
01:59:16	何か、どのタイミングなのかわからないんですけど、例えば、
01:59:20	大きいマルの際、沖中江藤 1 ポツ目の最後に、
01:59:25	本編資料 6163 参照みたいな感じですか。こういう、
01:59:30	ページ数って、
01:59:31	どの資料を見たらいいのかって言うですね。
01:59:39	1 ポツ目、300 ページの 1 ポツ目のさ、最後のあたり 10 センチか。
01:59:47	あれ、私だけ違うこれひょっとして資料。
01:59:51	これこれこれ。
01:59:53	1 ポツ 1 ポツの文献調査の結果の一番最後 10 センチ以下、括弧本編資料 を、
02:00:00	P61 及び 63 とか、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

02:00:03	その下も P94P94. これ本編資料でいいのかな。
02:00:09	あと次のページ 301 ページも、補足説明資料 1 の P116 参照みたいなの が上から 2 行目のところにありますけど、
02:00:18	こういう、
02:00:19	資料って、
02:00:21	今回のこの資料を見ればいいのか、それとも何か以前に出された何かの 資料の、
02:00:29	ページ数なのか、ちょっとこれ教えてください。
02:00:35	すいませんまずページ、参照ページ先がずれてますごめんなさい。修正 させていただきます。
02:00:41	それとルールとして、
02:00:44	同じ時とタイミングの資料を参照するときは、自分の資料であれば、直 接 P03 章って書くので、例えば 300 ページ本編資料 P0P0 参照っていう のは、
02:00:55	これ、
02:00:56	この資料自体が、
02:00:58	一遍資料になりますので、本編資料という記載が多分いらなくて、 P0P03 章になりまして、ごめんなさいページが間違いでございます。
02:01:08	それと、301 ページに行った時に補足説明資料 1 っていうのは、これは 同じタイミングで出した補足説明資料 1 を指してございまして、昔にさ かのぼる場合は必ず、
02:01:18	令和何年何月審査会合資料、補足説明資料 1p0 参照と書きますので、
02:01:25	基本は同じ。
02:01:27	タイミングのものになります。以上です。
02:01:30	はい。規制庁佐口です。わかりましたので、多分、資料のいろいろ組み かえだったり、追加とかいろいろあって、例えば 301 ページの書いてあ る、
02:01:40	補足説明資料 1 の 116 ページを見ると、
02:01:44	これって銭亀とか書いてあって、多分、
02:01:48	違うので、多分、だからページ数がちょっとだからそういういろいろ編 集の過程があって、今はちゃんとなっていないんですけどこれは最終的 にはしっかりした
02:01:58	対象となるところが、
02:02:00	記載されるっていうことでよろしいですね。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

02:02:03	いや私これちょっと確認しようかなと思ってみたら違ったんでそれだけです。はい。北海道電力の渡部です大変申し訳ございません。
02:02:11	適正化、酒税させて、
02:02:13	いただきます。
02:02:14	申し訳ございませんでした。
02:02:15	以上です。
02:03:53	谷です。
02:03:57	補足の1の、
02:04:00	あれこれ前も聞いたのかもしれないが136と130なので、私ここで、
02:04:06	この10001000粒子だとか300粒子だとか、
02:04:13	まあまあそれつけてくれたのこれはよかったなと思ってるんですけど。
02:04:19	これって
02:04:22	センリョウし、
02:04:24	ぎりぎりのようなもの、例えば950でした。そういうのはなかったんですか。
02:04:50	北海道電力の渡部です。
02:04:52	108、補足の2-180ページを、
02:04:56	見ていただければと思うんですけど
02:05:08	言わない部屋にする梨野舞納露頭。
02:05:12	なります。
02:05:13	ここの、
02:05:14	火山灰質左室シルトと言われているところでサンプリングをしている。
02:05:20	組成の図と屈折の図が右側にあるかと思います。失格の赤で囲ってる範囲というのが凡例にある通り洞爺の純層と判断しているところで、
02:05:31	これが1000粒子を超えていると。
02:05:33	資料番号でいくと3番っていうのがちょうど漸移区間になって、
02:05:37	今割り切って線を切ったら、
02:05:39	そのまま二次だよという扱いにはしてございます。
02:05:44	この辺っていうのが、
02:05:47	ここぐらいでわずかに変化するというのが、ここをどうとらえるかって考えたときに、
02:05:56	左側の簡易柱状、
02:05:58	露頭海中以上あるかと思うんですけども、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

02:06:01	火山灰してき質シルトっていうふうな、そうそう記載のところに、右側の記載のところで、甲斐褐色と褐色と若干色調が異なると。
02:06:11	いう情報もありましたので、
02:06:13	900 という微妙な数字ではあるんですけども、
02:06:16	ここで切ってもいいんじゃないか、純層と二次と分けてもいいんじゃないかというふうに判断してございました。以上です。
02:06:26	谷口わかりました。だからそういうところには純層っていうのがもう必ずこうくっついてて、そこの境界の部分が若干変わる、変わるような、そういう話なんですね。わかりました。
02:06:46	こ、
02:06:48	という。
02:06:51	これは遠矢の話という。
02:06:56	等以外もこれだ。
02:07:00	北海道電力の渡部です。ガラスが多いっていうものでほかに見つかるのが阿蘇4 になってくるんですけども、基本は洞爺をベースにした、その確認して1点だけになるんですか。
02:07:11	同じ考えで整理いたしました。
02:07:13	以上です。
02:07:17	誰か
02:07:19	この、この協会が、
02:07:22	火山灰層厚評価に、
02:07:24	影響するような、
02:07:26	対象がこの境界で何か引っかかるっていうことは、今のところはありませんよ。
02:07:32	今のところはないってことですね。そうですね影響評価上の降下火砕物評価対象が、将来の噴火の同規模の噴火の可能性のあるものとされていますので、麻生4 と、
02:07:44	大屋に関してはその点でいくと、
02:07:46	検討対象外になってくるだろうと考えてございます。以上です。
02:07:55	はい、わかりました。いずれにしてもあれですねはっきりして私はちょっとすっきりして、
02:08:00	はい、ありがとうございました。
02:08:29	井谷です。
02:08:30	もう時間も過ぎてきているので、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

02:08:34	確認は、規制庁側からの確認は以上にしたいんですけども、
02:08:39	北海道電力から何かありましたら、
02:08:45	はい。北海道電力泉でございます。当社から確認したい事項ございません。
02:08:53	はいわかりました。
02:08:55	規制庁側としてはですねこれ介護、早急にやりたいなと思っていますので、
02:09:04	資料をいつ出せるかっていうのをですね今後すぐに検討していただいて、言っただけいたらそれに応じて、
02:09:12	会合を設定
02:09:15	で、もう次はヒアリングなしでいこうと思っていますので、よろしくお願ひします。
02:09:26	はい。北海道電力神です。承知いたしました。
02:09:30	入ったのです。それでは本日のヒアリングを非常にしたいと思いますどうもお疲れ様でした。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。